

令和7年度 第5回和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和7年12月18日（木） 午後7時30分～午後9時20分
- 2 開催場所 京丹波町役場 1階 防災会議室
- 3 出席者 (1) 構成員 7名
松本和久教育長、井戸仁委員、原田美希委員、才村路子委員、
大田有次委員、早川公雄委員、森瀧ひろ香委員
(2) 事務局 6名
 - ・教育委員会
岡本教育次長、四方学校教育課長、長尾総括指導主事、
野口学校教育係長
 - ・和知小学校
梅原校長
 - ・和知中学校
船越校長
- 4 欠席者 (1) 構成員 3名
河谷尚都委員、春田貢委員、川中愛映委員
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議の概要
(1) 会長あいさつ

【会長】先日、11月27日に小学校で小中学校合同の説明会を行いました。ちょっとインフルエンザの関係でご参加の方が少なかったのかなと思います。Z o o mでもご参加いただいたということで、本当に大変お忙しい中ありがとうございました。

そして、たくさんのご意見をいただきました。このご意見を反映しながら最終的には答申の方に向かっていきたいと思っております。

あと、本日も委員の皆様にはたくさんのご意見をいただいて、それも反映していくというような形になるかと思えます。

忌憚のないご意見をいただけたらなと思えますのでどうぞよろしく願いいたします。

(2) 教育長あいさつ

【教育長】第5回の検討委員会ということで、夜分お疲れの中、ご参加を賜りまして厚く御礼申し上げます。

前回の第4回以降、私の方で承知をしております三つのトピックスについて簡単に報告します。まず一つ目は、会長からもありましたように、1月27日に保護者等説明会を和知小学校で開催していただきました。会長、副会長また委員からも何名かご参加をいただきました。詳しくは後ほど事務局から報告しますが、まずご案内をした方々は、こども園、小学校、中学校の保護者、それから地域の役員の皆さんということで102名の対象の方にご案内を出しました。ご参加をいただいた方は51名でありました。全体の半分であります。そして、説明会終了後の1月27日から12月7日の間、説明を受けての意見の提出をお願いしました。意見をいただいた方が、その参加者のおよそ70%にあたる方です。中身は後ほど報告します。

半分の方にご参加いただき、そして参加をいただいた方の7割から意見があったということで、これを1つ地域や保護者の皆さんの意見として、捉えても良いのではないのかなと、その辺はまたご検討いただきたいと思います。

二つ目です。12月11日に和知小中学校合同の学習発表会が開催されました。ここでは小中学校のそれぞれの学びに加えて、特にここで議論をいただいております関係でいえば、地域の伝統文化の発表があったこと、それから中学校からは和知の地域に根ざした探究的な学びが小学生や保護者の皆さんに向けてもされました。和知ゼミという形です。和知の地にある中学校としての学びであったなと思いました。私も参加をさせていただいて、中学生の学びが地域に立脚したしっかりとした学びであることを確認いたしました。

三つ目であります。現在、京丹波町議会第4回、いわゆる12月議会が開会中でございます。過日、12月16日、17日に一般質問がございました。その一般質問のうち、お2人の議員から京丹波町の学校のあり方に関する質問がございました。主たる質問は、和知の現在進めていただいているあり方検討がどのような経過をたどり、どのような到達点であるかという質問です。もう一つは、丹波地区の具体的にいえば、下山小学校や竹野小学校のあり方について、少し別の表現でストレートにいえば、統廃合について検討すべきではないかという、そういった内容の質問がありました。町長と私からは、学校のあり方は、やはり地域や保護者の意見をまずしっかり聞くことから始まるということで、そういったことを丁寧にやりますとこういう回答を現在のところしております。

この間、こうしたあり方検討に関わる関連するような出来事が三つあり

ました。いずれにしてもこの和知小中学校のあり方検討委員会の現在進めていただいていることに注目が集まっているということでございます。本日はこれまでの議論、そして保護者説明会等で出された意見、これらを基に今後のあり様の大きな方向性を議論いただけるものと思っております。

○教育長は所要のため退席

(3) 議事事項

ア 保護者等説明会の報告について

①、②について、事務局から説明を行った。

①当日の配布資料について【資料－１】（岡本教育次長説明）

②参加状況及び意見等について【資料－２①～③】（岡本教育次長説明）

○事務局からの説明について意見・質問なし。

イ 交流協議＜ワークショップ＞

テーマ「今後の方向性について（小中一貫校を採用した場合、一般的に検討されている事項について）」

資料－３について、事務局から説明を行った。（四方学校教育課長説明）

○ワークショップでの主な意見は別紙の通り。

【Aグループまとめ】 発表者：船越校長

- ・現実的に今あるもので何かできないかで考えると移動手段として、スクールバスと運転手で環境が改善されないか。
- ・9年間の学びとして、企業のプログラムを取り入れ、1年間を通じた外国語学習ができないか。
- ・伝統文化に関する小学校での基礎的な学びを中学校での探究型学習に取り入れられないか。
- ・カヌーを活用した継続的な学びができないか。
- ・小規模校の課題でいうともちろん人数が多くないとできないこともあると思うが、小さい規模だからこそできることやメリットもたくさんある。
- ・PTAの組織が1つになれば負担が軽くなるが、そもそもPTAの負担って何だろうという話になった。本来、学校に集まって子どもたちのためにと前向きにやっておられる今の現状があるので、それを大事にしていけばいい。
- ・学校と地域のコミュニティスクール的な活動も中学校ではまだまだこれからというところもあるので、一緒になれば小学校でやっているいろいろな活動を中学校にも広めていける。
- ・保護者同士の集まって繋がっていくという良さもあると思うので、9年間ってなれば継続していけると思う。

【Bグループまとめ】 発表者：大田副会長

- ・卒業式、入学式は区切りとしてやってほしい。

- ・今までも連携教育を進めていただいているので、施設分離型になったとしてももっと踏み込んで事業が進められる。
- ・地域密着型の学習というのは地域柄やりやすいと思うが、大きな変化ではないためブラッシュアップしていく必要がある。
- ・プログラミングや情報活用に関する内容の充実
- ・小学校のころから英検を目指して小中学校連携して英語に取り組むとかプログラミングに力を入れるなどの連携したカリキュラムを組んでいける。
- ・スクールバスが導入できれば小学校、中学校の行き来だけでなく、他校との交流がもっとできるようになる。
- ・和知という小規模校だからこそ丁寧な教育がされていると感じる。大規模校だとできないこともあると思う。今の学習の成果が見える化できればいいと思う。

【事務局まとめ】（岡本教育次長説明）

本日、議論いただいた内容につきましては、主に保護者等説明会のアンケート結果を踏まえて小中一貫校を採用した場合、一般的に検討されている事項について議論いただいたわけですが、本日、委員様からいただいたご意見から方向性については総意をいただいたということで事務局でも受け止めさせていただいておりますので、本日のご意見もまた答申という形で取りまとめてたたき台を作る中で、会長、副会長のご意見を聞きながら次回お示しできるように進めていきたいと思っております。

（４）その他・事務連絡・第６回委員会の日程について

次回２月６日（金） 午後７時００分

京丹波町役場 １階 １１１・１１２会議室

（５）閉会あいさつ

【副会長】今夜も第５回あり方検討委員会ということで、貴重なご意見なり議論していただきありがとうございました。方向性としてはアンケート上の割合からも和知地区における小中一貫校という方向が出せたのではないかなと思いますけれども、一方で中学校の統合であったり、小中の統合であったりというご意見もいただいているわけでありまして、そういったご意見の方も含めて、小中一貫校で良かったなと思えるような内容にブラッシュアップしていきたいと思っておりますし、保護者のご意見の中にもありましたが、小中一貫校になったとしても子どもの人数が激減していったら、その状況を維持することすら難しいので、やっぱりそういったことの対策も必要じゃないかなと思います。クラブ活動でも昔は小学校から少年少女カヌークラブがあって、中学校では全国大会に出場したりとか、もっとやりたい子は綾部高校に行き続けていたりとか、そういった協力体制がありましたし、人形浄瑠璃や太鼓といった伝統文化でも指導していただける方がいらっしゃるのでもつづいていますが、指導者についてもだんだん高齢化が進んでいて、そのためにできなくなってしまったではいけな

いと思うので、今後も持続させていくために必要なことは何か知恵を出していきたいと思います。

最後に、本日出ました方向性を一層内容を吟味して、素晴らしい教育活動ができるようお願いをしまして、締め言葉とさせていただきます。本日もありがとうございました。

[閉会：21時20分]